

滋賀県議会 文化・スポーツ対策特別委員会

2017年12月19日(火)

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAの取り組み

社会福祉法人グロー(GLOW) 理事長 北岡 賢剛



ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

戦後まもなく近江学園で始まった造形活動

滋賀県では、障害のある人の施設での造形活動が、戦後まもなくから、脈々と取り組まれてきました。

このことから、障害のある人の作品を常設展示できる場が長年求められてきました。

1946年
~



新装になった窯業室の機械ロクロで茶器を試作する糸巻氏(1960・7)

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA開館

福祉、美術、学識者、行政等からなる検討委員会が設けられ、どのような場にしていくか議論されました。この議論の中から「ボーダレス・アート」の造語、NO-MAというネーミングが生まれました。

2004年



アール・ブリュットとの出会い

2006年 アール・ブリュット コレクション

(スイス・ローザンヌ)

2010年 パリ市立アル・サン・ピエール美術館

(フランス・パリ)

2006年



アール・ブリュット コレクション

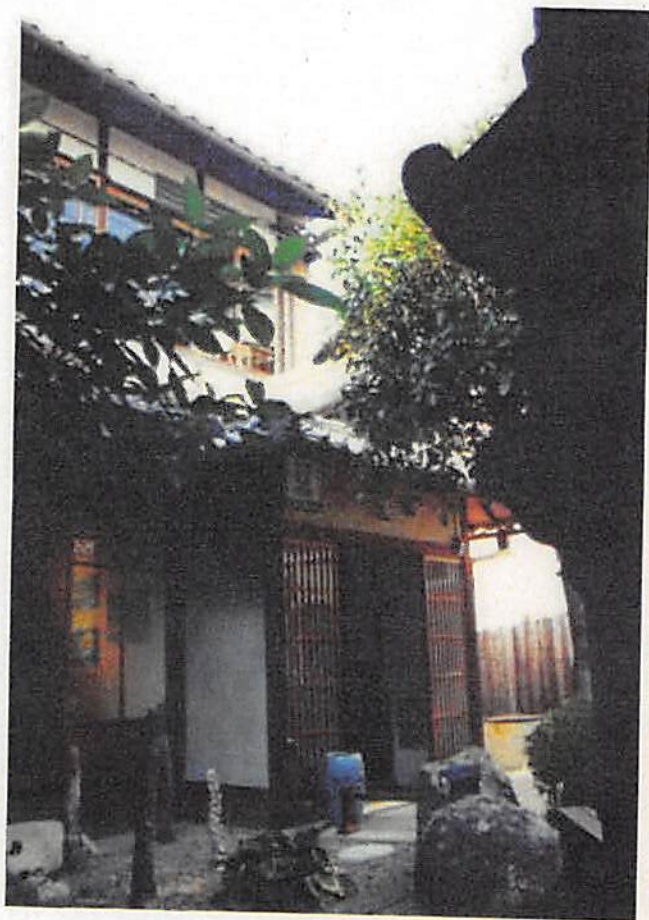
2010年



パリ市立アル・サン・ピエール美術館

ボードレス・アートミュージアムNO-MA

滋賀県近江八幡市の古い民家を改装して2004年開館



NO-MA正面玄関

- 自主企画展の数 **68本**(2004年6月～2017年11月)
- 巡回・出張展覧会の数 **38本**(2007年～2017年11月)
- 出展・参加者数 **1041名・団体**
(2004年6月～2017年11月)



障害の有無を超えて、人が持つ「表現をすることの普遍的な力」を感じていただく場
⇒ひとりひとりが多様な価値観を認め、共有しあえる共生社会の実現に寄与する。



全国・アジア地域作品調査研究

(2006年度～2017年11月末)

国内

都道府県別発掘作家数

40都道府県：**304**作家

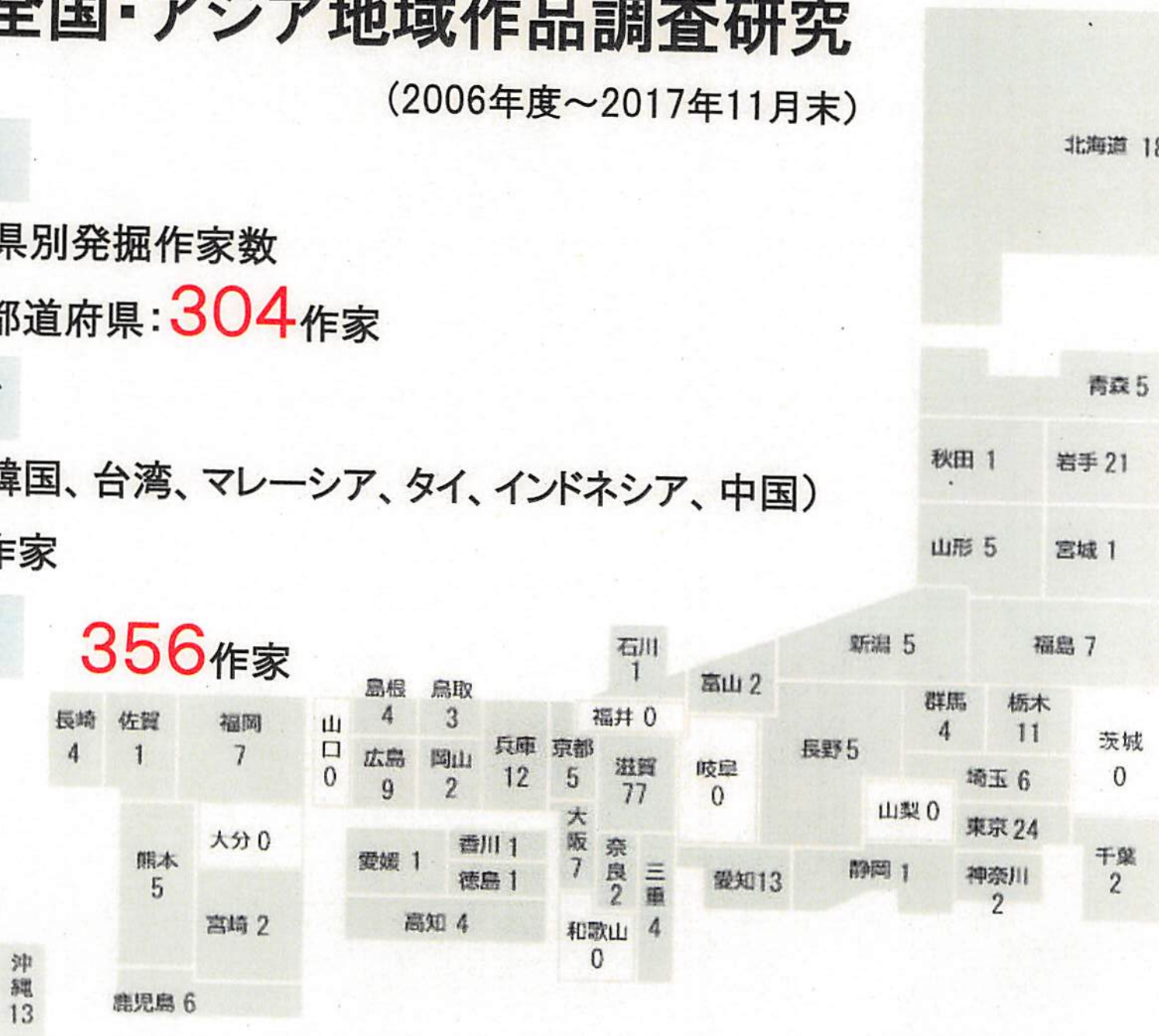
アジア

6カ国(韓国、台湾、マレーシア、タイ、インドネシア、中国)

52作家

合計

356作家



NO-MAの館外展示

スポーツ・文化 ワールドフォーラム
2016年 10月19日 ロームシアター京都



主催:文化庁
企画:社会福祉法人グロー(GLOW)
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人愛成会

「障がい者アートフェスタ2016」

2016年10月30日 米子コンベンションセンター



本展では、皇室 秋篠宮家の
眞子内親王にアール・ブリュット
作品についてご説明しました。



平成28年10月31日(月) 朝日新聞

総理官邸での展示

日時:2013年5月23日(木)

場所:総理官邸南庭



※2016年6月2日(木)舞台芸術分野も
含む同様の集いが開催された。

文部科学省主催の作品展示

会期:2013年10月2日~11月14日

会場:文部科学省情報ひろば展示室



アメニティーフォーラム

同フォーラムは、毎年2月に滋賀県大津市で行われ全国から1500人を超える人たちが参加されます。同会場にてアール・ブリュット作品の展覧会を開催しその魅力を発信。



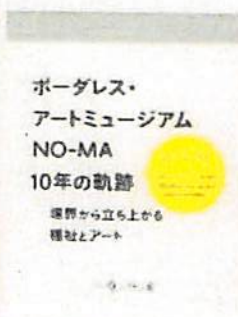
写真は2017年2月10日~12日
展覧会の様子

国内外への情報発信

出版書籍 11書籍



発行: NO-MA



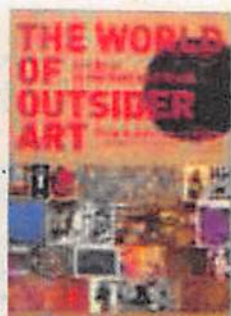
発行: NO-MA



発行: 平凡社



発行: 現代企画室



発行: 紀伊國屋書店



発行: 角川学芸出版



発行: NO-MA

図録発行数 47タイトル



全47タイトル企画展図録を発行



多様なNO-MAの活動



NO-MA視察対応 延べ**1,246**団体 延べ**11,088**名

(2012年4月～
2017年11月末)

行政、美術館学芸員、福祉関係者など、毎年多くの視察者が全国から来館。



アール・ブリュットを中心に障害者の文化芸術を
テーマとした職員による講演数 **116**件

(2011年4月～
2017年11月末)

全国でアール・ブリュットを中心とした障害者の文化芸術活動に関する講演をグロー職員が行い、その魅力を広く情報発信。



海外の有識者招へい数 **40**名 (2006年4月～2017年11月末)

国際フォーラムの開催等を通して、国際的な視点でアール・ブリュットの振興について議論を深める。

(写真)アール・ブリュット国際フォーラム2017 トーマス・レスケ(プリンツ・ホルン コレクション ディレクター) 2017/2/11 びわ湖大津プリンスホテル



作品通して市民がつながる ボランティア 延べ **285**人 (2014年3月～
2017年7月末)

2014年から近江八幡の旧市街地複数会場において、アール・ブリュット作品を展示。その運営を地域の方々にボランティアとして参画いただき、これまでに285名が活動。展覧会ボランティアを通じた居場所作りを目指し、障害のある方や高齢者も参加。

審議会等へ参加

障害者の文化芸術活動を推進する立場で、国や地方自治体等の、様々な審議会や会議に委員として参加しています。



社会福祉法人グロー 理事長 北岡賢剛

○厚生労働省 社会保障審議会 障害者政策部会 委員 ○内閣府 障害者政策委員会 委員 ○鳥取県 障がい者芸術・文化活動推進委員会 委員

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 副部長 田端一恵

○国立美術館 運営委員

○(文部科学省・厚生労働省) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会 委員

○滋賀県文化審議会 委員 ○滋賀県基本構想審議会 委員 ○岩手県障がい者文化芸術検討委員会 委員 ○草津市文化振興審議会 委員

海外での展覧会

日本のアール・ブリュットは、各国で感動と共感をうみ出し
 今まで紹介されて来なかった日本の世界観を伝えています。



2008 2/22 - 2009 1/25

スイス
 ローザンヌ
 「JAPON」展



2010 3/24 - 2011 1/2

フランス
 パリ
 「ART BRUT
 JAPONAIS」展



2013 3/28 - 6/30

イギリス
 ロンドン
 「Souzou」展



2017 10/21 - 2018 1/14

フランス
 ナント
 日本のアール・ブリュット
 「KOMOREBI」展



2018
 スウェーデン
 ストックホルム

2018 フランス パリ

アジアでの展覧会

2011 9/26-11/24
韓国 ソウル
 アール・ブリュット
 韓日交流展
 「境界を超えた芸術」

2017 3/3-26
タイ王国
バンコク
 「ART BRUT in
 THAILAND & JAPAN」展

2012 4/20 - 2013 9/2
オランダ
 ハールレム
 「ART BRUT
 from JAPAN」展

2014 3/23-12/30
スイス
 ザンクトガレン
 「ARTBRUT
 JAPAN SCHWEIZ」展

2015 9/9 - 2016 5/22
オーストリア
 ウィーン
 「ARTBRUT
 JAPAN・SCHWEIZ」展



gugging

フランス パリ市立美術館での展覧会の開催

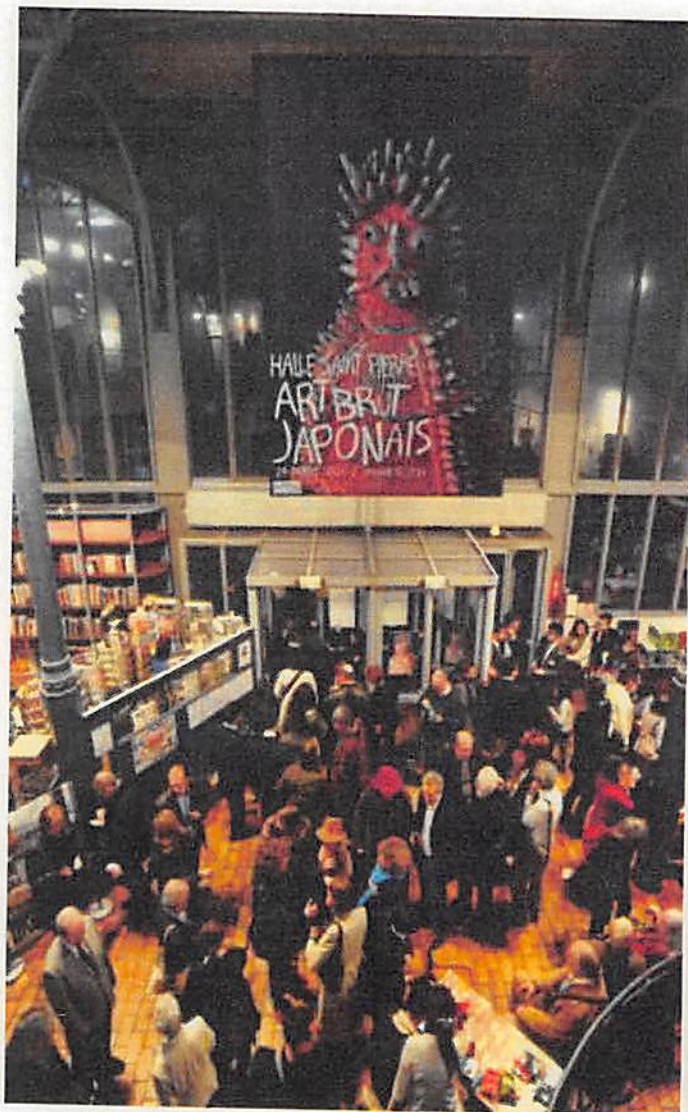
12万人の観覧者

アール・ブリュット・ジャポネ展

会期:2010年3月24日~2011年1月2日

主催:パリ市立アル・サン・ピエール美術館

出展者数・出展作品数:63人(20都道府県)、778点



オープニングパーティー(美術館エントランス)



展示の様子



パリ市街に掲示されているポスター



展示の様子



ヨーロッパ巡回展 (イギリス ロンドン)

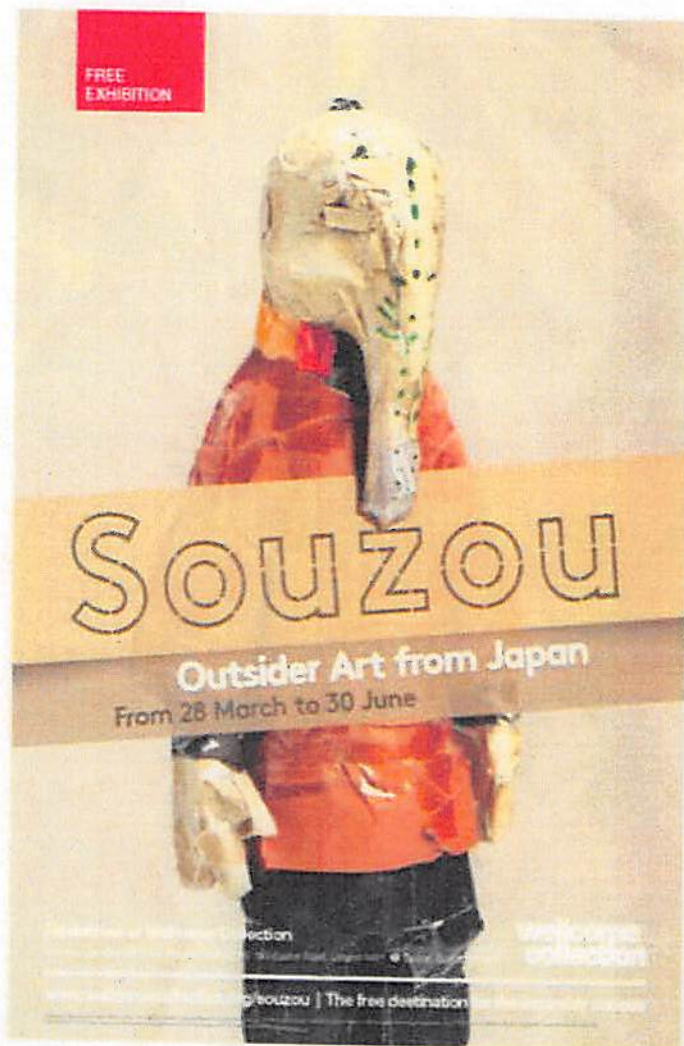
9万人の観覧者

SOUZOU(ソウゾウ)

ーアール・ブリュット・フロム・ジャパンー展

会期:2013年3月28日(木)~6月30日(日)

主催会場:ウェルカムコレクション(イギリス)



イギリス会場ポスター



ウェルカムコレクション外観



展示の様子



展示の様子



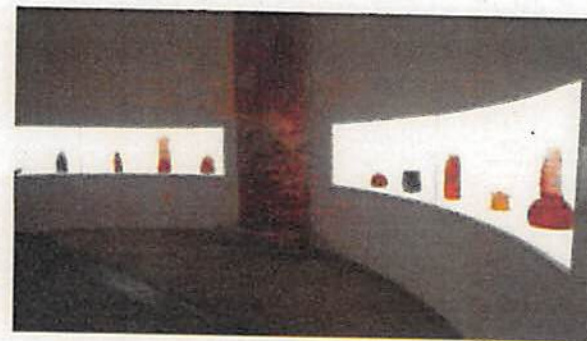
展示の様子

「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」に 澤田真一氏(草津市在住)が出品

2013年6月1日～11月24日までヴェネチア(アルセナーレ会場)

・美術展総合ディレクターであるマッシミリアーノ=ジオーニ氏から招へいされ、草津市在住の澤田真一の作品が出品される。

・美術展には37か国から150人以上のアーティスト参加。
(日本からは澤田氏その他、大竹伸朗氏(東京)、吉行耕平氏(広島)が出品)



澤田真一 プロフィール
1982年生まれ。草津市在住。

陶芸作品の特徴は、作品を覆うトゲのような形態である。度重なる制作の中で、一つの元素(トゲ)で彼にしかできない表現力を確立しており、一つの元素でこれだけいきいきとしたフォルムを表現できる能力は評価されている。自閉症であるが、粘土造形によって、彼がひとりの世界の中で、自由に飞翔し、どこにもない、自分だけが生み出した造形美がある。スイスの美術館「アール・ブリュット・コレクション」に12点が收藏され、また、2010年～11年にかけてパリ市で開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展で注目を集めるなど、日本のアール・ブリュットを代表する作家の一人である。



文化庁委託事業「平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業」
 障害者の文化芸術国際交流事業

2017 ジャパン×ナント プロジェクト

—日本の障害者の優れた芸術文化が文化芸術創造都市として名高い
 フランス・ナント市から世界に向けて総合的に紹介された初の試み—

日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展

出展者42名 総作品約900点 展覧会の開幕から14日間の会期中で
 14,550人が観覧(リュウ・ユニック開館史上歴代2位の動員記録)



ナントを代表する二つの文化施設



ナント国際会議センター
「シテ・デ・コングレ」



フランス国立現代
芸術センター
「リュウ・ユニック」

オープニングレセプション



レセプション会場を埋め尽くす参加者
「リュウ・ユニック」2017/10/21

国際研究フォーラム



「障害のある人の文化芸術とケアと
権利」日仏の専門家総勢48名が登壇

主催：文化庁、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会
 ナント国際会議センター シテ・デ・コングレ、
 フランス国立現代芸術センター リュウ・ユニック
 後援：外務省、厚生労働省、全国知事会、全国市長会、全国町村会
 協力：(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
 制作：障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会

障害者による舞台芸術公演 延べ11,000人が鑑賞



いわみ福祉会芸能クラブ
石見神楽(島根県)



瑞宝太鼓(長崎県)



湖南ダンスワークショップ(滋賀県)



じゅうじゅう劇場(鳥取県)

滋賀県からは糸賀一雄記念賞音楽祭で活躍する湖南ダンス
 ワークショップ総勢24名がナント公演に参加

糸賀一雄記念賞音楽祭からフランス・ナントへ 湖南ダンスワークショップ

糸賀一雄記念賞音楽祭・・・2001年から2017年まで16回継続して開催

本音楽祭は平成14年から毎年開催。障害者の表現を中心としつつ、アーティストらと音楽やダンスの即興パフォーマンスを繰り広げ感動のステージをこれまで16回にわたり創造しています。県内6地域で開催される「うた」、「打楽器演奏」、「ダンス・身体表現」の表現活動ワークショップに参加する障害のある人等、参加者は回を重ねるごとに拡大し、現在200人を超える人が音楽祭に出演している。

これまでの音楽祭(2001年～2017年)に参加した

滋賀県内福祉事業所 延べ **243** 団体

出演者総数 延べ **2,925** 人

観客数 延べ **8,222** 人

2017年11月に実施した第十六回音楽祭までの累計数



第十回音楽祭 2011/11/27



2011年に開催した第十回音楽祭では、フランス国立現代芸術センター「リュウ・ユニック」からパトリック・ギゲール館長を総合プロデューサーとして迎え、湖南ダンスワークショップとの共同創作を実施した。このコラボレーションがきっかけとなり、今回の「2017 ジャパン×ナント プロジェクト」に湖南ダンスワークショップの出演が決定した。



舞台挨拶する
パトリック・ギゲール
館長



湖南ダンスワークショップのステージ
2011/11/27 栗東芸術文化開館さくら

糸賀一雄記念賞音楽祭からフランス・ナントへ 湖南ダンスワークショップ

音楽祭に毎年出演する湖南ダンスワークショップのダンス作品が、フランス・ナントで高い評価を受ける

2017 10/23
ナント国際会議センター
シテ・デ・コングレ



パフォーマンスを観覧するナントの観衆

クロード・ブルマシオン(フランス国立振り付けセンター・ナント前ディレクター)とのコラボレーションステージ

公演終了後、パフォーマンスを賞賛するジャン・マルク・エロー氏(フランス元首相・ナント名誉市長)

障害のある人の造形活動を支援する



障害のある人が安心と希望を持って造形活動に取り組める環境づくりを推進します。



アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

2011年6月

障害のある作家の権利保護のあり方研究会の開催
(2011年6月 滋賀県が設置、グロー[GLOW]は、研究会委員として参画)

2012年3月

障害福祉サービス事業所向けの著作権等保護に関する指針(ガイドライン)を滋賀県が策定

2012年6月

グロー(GLOW)企画事業部内に滋賀県障害者造形活動支援センターアール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター(略称アイサ)を開設

滋賀県の取り組みがモデルとなって全国に普及

(2014年度～厚生労働省:障害者の芸術活動支援モデル事業)

(2017年度～厚生労働省:障害者芸術文化活動普及支援事業)

社会福祉法人グローは全国の実施団体の連携事務局を担っています。

相談対応

2012年6月～2017年11月末までの実績

○県内 711件

○県外 1,626件

○合計 2,337件

研修会の開催



作品の二次利用にあたって必要な権利保護
講師:中久保満昭(あさひ法律事務所弁護士)

鑑賞の場づくり



目の見えない人との作品鑑賞プログラム
「作品を言葉にして、手で見て、鑑賞しよう！」

障害のある人の造形活動を支援する



「滋賀県施設・学校合同企画展」

障害者の造形活動に関して県内の環境を醸成

2004年から2017年まで
14回継続して開催

「滋賀県施設・学校合同企画展」は、滋賀県内の福祉施設と特別支援学校の職員等と、ポータレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織し、展覧会を企画・運営。

【目的】

1. 造形活動を担当する職員間の交流を図る
2. 造形活動を担当する職員の展示技術、造形活動支援の技術向上を図る
3. 県内の造形活動に関する情報を全国に向けて発信する

(2014年度～厚生労働省：障害者の芸術活動支援モデル事業)

(2017年度～厚生労働省：障害者芸術文化活動普及支援事業)

県内の福祉事業所参加団体(機関)数 延べ**329**団体(機関) 特別支援学校 延べ**7**校
出展者数 延べ**494**人 来場者総数 **14,088**人 (2004年～2017年12月10日現在)



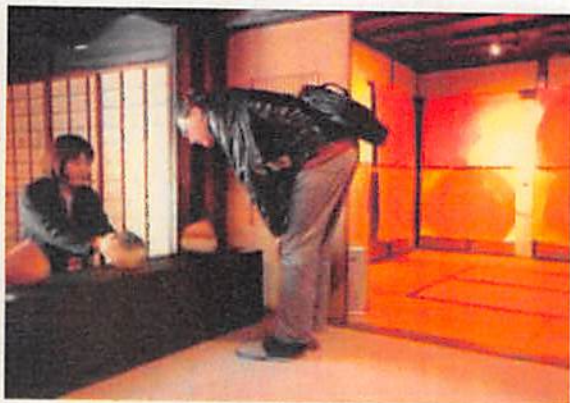
ボランティアスタッフとつくる展覧会

—アール・ブリュット作品を通して市民がつながる—

ボランティアスタッフの活動の様子



会場受付



作品の案内



ギャラリートーク

ボランティア参加者82名(2016年度実績)

- 性別 女性:41名、男性:41名
 - 居住地別
〈県内〉77名
〈県外〉京都府:2名、大阪府:1名、奈良県:1名、兵庫県:1名
 - 世代別 10代:4名 20代:8名 30代:8名 40代:9名 50代:10名
60代:22名 70代:21名
- ※参加者の45%(37名)が65歳以上**

社会福祉法人である強みを生かして その人に配慮した情報提供や活躍の場を設定

- 【各所からの紹介で参加した方】
- ひきこもり支援センターから…4名
 - 発達障害者支援センターから…2名
 - 近江八幡おやじ連ポレポレ25…9名
(65歳以上の男性で組織されたグループ)
 - 近江八幡第三区自治会…1名
(展示会場の近隣地区) (2016年度実績)

○ボランティアの声

「(自分は)長い間、ひきこもりであったが、昨年、ひきこもり支援センターからの紹介でこのボランティアに参加した。それが再び社会とつながっていくきっかけとなった。今年も自分と同じようにひきこもり支援センターからの紹介で参加する人がいると知った。昨年、ボランティアを経験した自分は、今度はその人たちの先輩として何か手助けができることがあるのではないかと思い、今年も参加した。」

障害者の芸術文化活動の振興に関する様々な動き①

アール・ブリュットネットワークの発足(2013年2月)

美術、福祉、医療、研究機関、行政等の異なる分野や立場の人たちが連携して、アール・ブリュットを支える環境全体を底上げしていくため、初めての全国組織となる「アール・ブリュットネットワーク」を設立。

会員数 **1317件** (団体182件・個人548件 情報会員587)
 ※2017年12月11日現在 ※全47都道府県から入会あり



会長：
青柳正規
(前文化庁長官)

超党派による障害者の芸術文化振興議員連盟の設立(2013年4月)

障害者の芸術文化振興法の制定を目指し、平成30年通常国会に法案を提出予定



設立総会の様子
(衆議院第2議員会館)



会長 衛藤晟一
(内閣総理大臣補佐官)

役員(2017年12月18日現在)

【顧問】 河村建夫(自民) 下村博文(自民)

【会長】 衛藤晟一(自民)

【副会長】 福岡資麿(自民) 古川康(自民) 大野泰正(自民)

堂故 茂(自民) 高木美智代(公明) 浮島智子(公明)

川内博史(立民) 神本美恵子(民進) 斎藤嘉隆(民進)

東徹(維新) 木戸口英司(希望の会) 中山恭子(希望の党)

【事務局長】 山本博司(公明)

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進するネットワーク」の設立 会長 久保厚子(全国手をつなぐ育成会連合会 会長) (2015年7月)



(障害者団体等の27団体によりネットワークを構成)

- ①(社福)日本身体障害者団体連合会 ②(公社)全国脊髄損傷者連合会 ③(社福)日本盲人会連合 ④(一財)全日本ろうあ連盟
- ⑤(一社)全国肢体不自由児者父母の会連合会 ⑥(社福)全国重症心身障害児(者)を守る会 ⑦全国手をつなぐ育成会連合会
- ⑧(公財)日本知的障害者福祉協会 ⑨(特非)全国地域生活支援ネットワーク ⑩(公社)全国精神保健福祉会連合会⑪(一社)日本精神科看護協会
- ⑫(一社)日本自閉症協会 ⑬(一社)日本発達障害ネットワーク ⑭全国社会就労センター協議会 ⑮(特非)DPI日本会議
- ⑯全国社会福祉法人経営者協議会 ⑰全国身体障害者施設協議会 ⑱(特非)日本相談支援専門員協会 ⑲(一社)日本精神保健福祉事業連合
- ⑳(一社)全国児童発達支援協議会 ㉑(一社)全国知的障害児者生活サポート協会㉒(公財)日本ダウン症協会
- ㉓(特非)バリアフリー映画研究会 ㉔(社福)全国盲ろう者協会㉕(社福)日本肢体不自由児協会
- ㉖(特非)手話ダンスYou&I ㉗(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

障害者の芸術文化活動の振興に関する様々な動き②

障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会/厚労省・文化庁事業
(H25年6月～7月 計3回開催)

- 障害者の芸術活動の在り方、○障害者、その家族、支援者等に対する支援の在り方
- 障害者の芸術作品の展示等を推進するための仕組みなどが議論される。

懇談会の中間とりまとめを受けて



文化庁

厚労省

戦略的芸術文化創造推進事業(2014年度～)

障害者の芸術活動支援モデル事業(2014年度～)

文化庁委託事業
「平成29年度 戦略的芸術文化創造推進事業」

2017 ジャパン×ナント プロジェクト



「平成29年度～障害者芸術文化活動普及支援事業」

2017年度は、23団体が全国の22都道府県で
障害者の芸術文化活動普及支援事業を実施



社会福祉法人グローは全国の実施団体の連携事務局を担っています。

これまでの取り組みを通して

- 潜在化していた障害者の才能が顕在化
- 生きづらさを抱えた人にも役割や出番のある街に
- 障害者が、文化・芸術の生み出し手であるという実証
- このことを社会にフィードバックすることで社会的包摂が実現
- 文化・芸術は、だれにでも居場所と出番がある社会をつくることに、大きな作用がある



湖南ダンスワークショップ ナント公演の報告が「広報やす」のトップを飾る。(2017年12月号)



小学館 日本美術全集 (2016年3月1日発行)

国内の9名のアール・ブリュット作者が掲載される



作品を通して市民がつながる(ボランティア)



「美の滋賀」に期待すること

文化は市民の自尊心を高め、市民間の連帯を促進する力がある。

「美の滋賀」づくりの継続的な推進

(12:49)

- ・「美の滋賀」づくりの取組を通じてつながり始めた、県内各地の団体や地域の人々の連携が促進され、ネットワーク化や展開がさらに広がる。
- ・新生美術館が「美の滋賀」の発信・連携の拠点となる。

だれにでも出番のある街に
「美の滋賀」づくりを通して生まれた県内のネットワークや
新生美術館を舞台に、だれもが活躍できる。